

随 想

RADIOLOGY について

玉木 正男

ここに取り上げた radiology という語は、いわゆる radio(ラジオ)の発明 (1920年)以前に作られた学術用語で、radio に関連する語ではなく、medical radiology という形容詞付きでなくとも、一般に放射線医学と理解されている。RADIOLOGY という誌名の月刊学術雑誌も、米国で刊行され広く普及した放射線医学雑誌であり、ラジオに関連ある無線工学の雑誌ではない。

筆者が終戦直後、東京日比谷の米国が作った C I E 図書館で雑誌 RADIOLOGY を見たいと言ったところ、ラジオ、無線工学の部門を調べて所蔵していないとの応答があり、医学雑誌だと言ってその部門に見つけてもらった経験がある。(ラジオなどに関する無線工学は、radio-engineering ということの後で教えられた。)

Radiology という語はいつ初めて用いられたか、詳しく追求したわけではないが、レントゲンが発見報告した X線に関する研究がその後大きく発展したオーストリア国のウィーン大学では、1904年には medizinsche Radiologie が専門学科になっていて、これを専攻する Dozent (講師) として R. Kienboeck、G. Holzkecht、L. Freund の有名な三学者 (後に Professor) の名が見られる。1910年には X線でわかる月状骨 (手根骨の一つ) に起きる骨軟化症が報告せられ、Kienboeck 氏病として広く欧米の医学に記載されるに至ったのも注目すべきであろう。

(大阪市立大学名誉教授)